

政策評価シート(令和4年度実績評価)

◎政策の基本情報

政策No	0303	政策名	生涯学習の推進	政策主管課	生涯学習課	課長名	梅原 奈美
政策の目指す姿		生涯を通して学び、広い視野を持ち、活動しています					
政策の方針							
社会経済情勢の変化への対応や地域課題の解決に向け、市民が生涯を通して学び、広い視野を持ち、活動していくためには、学習や活動のための環境づくりが必要です。 そのために、市民が自主的に生涯学習活動ができるよう支援を行います。また、地域と連携して青少年の自立に向けた育成を推進するほか、国際都市の実現に向け、市民の国際理解の醸成を図ります。							

1 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方	成果指標の測定方法	単位	数値区分	H31	R02	R03	R04	R05	R06
日頃、学習活動や趣味、運動などに取り組んでいる市民の割合	市民が日頃から物事に関心を持って自主的な学習活動に取り組んでいる状態を示す指標です。増加を目指します。	出典：まちづくり市民アンケート 問：あなたは、学習活動(まなび学園や生涯学習会館、総合支所、振興センター、図書館、記念館、博物館、市民の自主活動グループ、民間のカルチャースクールなどが開催する講演会、講座や教室)に、どの程度取り組んでいますか？(1)週に2回以上行っている。(2)週に1回程度行っている。(3)月に1回程度行っている。(4)年に数回程度行っている。(5)ほとんど行っていない。のうち(5)を除いたもの。	%	目標値	40.00	40.00	40.00	40.00	40.00	
				実績値	37.10	21.60	21.80	21.00		
生涯学習講座充足率	市が企画または主催する生涯学習講座の定員数に対する参加者数の割合を示す指標です。増加を目指します。	出展：生涯学習課 ①講座毎に充足率(受講者実人数/募集定員)を測定する。②講座毎に測定した充足率の平均を測定し、それを指標とする。	%	目標値		100.00	100.00	100.00	100.00	
				実績値		83.00	77.00	98.00		
				目標値						
				実績値						

2 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
C	新型コロナウイルス感染症の影響により、各地区や各社会教育施設等での活動が縮小されたため、目標値に届かなかったが、コロナ禍でも生涯学習講座を感染対策を講じたうえで、定員を少なくして回数を増やすなど工夫して開催したため、生涯学習講座充足率はほぼ目標値に近い数値となった。

3 政策の総合的な評価

評価区分	政策の課題と要因
C④	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、事業が中止・縮小され学習機会が減少したため、学習意欲の低下がみられ、また自宅でのオンライン学習の普及など学び方の多様化も進んできているため、これまでの講座開催のあり方等について検討するとともに、魅力的な内容の講座を開催するため、生涯学習講師の新規登録者を増やす必要がある。また、新型コロナウイルス感染症の影響による地域活動の縮小とともに、児童や生徒を含む全体的な人口減少に伴い、地域活動やボランティア活動も縮小している。青少年が主体的に関わるような内容の活動や、魅力的な内容の講座等の検討が必要。

4 政策に対する各施策の達成度

No	施策名	成果指標名	単位	数値区分	H31	R02	R03	R04	R05	R06
1	自主的学習の推進	ふれあい出前講座利用件数	件	目標値		400.00	475.00	480.00	500.00	
				実績値		202.00	175.00	261.00		
		市民一人当たりの図書貸出数	冊	目標値		3.70	3.80	3.90	4.00	
				実績値		3.14	3.25	3.28		
				目標値						
				実績値						
2	青少年の社会教育	地域で行われている行事やボランティア活動に、青少年が参加している市民の割合	%	目標値	39.00	37.00	38.00	39.00	40.00	
				実績値	25.40	19.10	17.50	17.80		
		青少年の健全育成活動にかかわった市民の割合	%	目標値	29.00	27.00	28.00	29.00	30.00	
				実績値	21.20	13.70	14.60	13.60		
				目標値						
				実績値						
3	国際都市の推進	海外の姉妹、友好都市との交流など国際交流に関心のある市民の割合	%	目標値		38.00	38.00	29.80	30.00	
				実績値		29.70	26.42	28.20		
		国際交流事業に参加した市民の割合	%	目標値		4.71	5.06	1.54	1.60	
				実績値		1.53	1.79	2.24		
		国内友好都市交流事業に参加した市民の割合	%	目標値		0.40	0.42	0.07	0.10	
				実績値		0.06	0.14	0.13		

5 政策を構成する施策一覧

1	施策名	自主的学習の推進			
	施策の成果指標の達成状況	H31 C	R02 D	R03 D	R04 D
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が主体的に学ぶために必要である講師等の学習資源の紹介や、市の学習拠点施設における学習成果発表の場づくり、生涯学習のきっかけづくりなど、今後も市民が主体的かつ自主的に学ぶ意欲の醸成が必要である。</li> <li>・視聴覚教育としての映画会や、読書活動推進としてのおはなし会等への参加者数は回復傾向にあるものの、コロナ禍以前の人数には回復していないため、利用を促すための取り組みが必要である。</li> <li>・読書活動を推進するため、これまでのおはなし会等の取り組みに加え、読書への入り口となる図書館へ目を向けてもらうための取り組みが必要である。</li> <li>・新花巻図書館整備に関して、基本計画の策定に向けて、建設場所の選定などを検討する必要がある。</li> </ul>			
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習活動支援事業について、市民が主体的に学ぶために必要である講師等の学習資源の紹介や、市の学習拠点施設における学習成果発表の場づくり、生涯学習のきっかけづくりなど、今後も市民が主体的かつ自主的に学ぶ意欲の醸成に努める。</li> <li>・視聴覚教育推進事業に関して、地区や企業などの各団体で視聴覚教育資料を有効に活用いただくよう積極的に周知活動を行う。</li> <li>・読書活動推進事業に関して、おはなし会等のイベントや企画展等の充実を図るほか、新たな手法での利用促進策の検討など、関係機関等と連携しながら市民の読書への関心を高めるための取り組みを進めていく。</li> <li>・新花巻図書館整備基本計画策定に向け、建設場所選定にあたっては様々な意見があるが、それぞれの候補地の事業費比較などの資料作成も検討し、それらを使って市民に対し丁寧に説明したうえで作業を進める。</li> </ul>				

2	施策名	青少年の社会教育			
	施策の成果指標の達成状況	H31 D	R02 D	R03 D	R04 D
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生等のボランティアリーダーが活躍できるような事業を検討し、児童・生徒から青年層まで、年齢に応じた体験の循環ができるようにする必要がある。</li> <li>・花巻警察署による不良行為補導件数は、令和4年中においては20件（前年度比10件の減）、不審者による子どもの生命または身体を害するような声かけやつきまとい行為などの認知事案が20件（前年度比4件の減）と減少傾向にあり、少年補導委員等の目に見える街頭補導活動や啓発活動により補導件数の減少など一定の成果が認められるが、さらにより効果的な少年の非行防止と犯罪被害防止対策と担い手の確保が必要である。</li> <li>・非核平和学習会（広島市へ小学生を派遣）については、新型コロナウイルス感染症の対策が緩和されるなか、広島市への小学生の派遣について改めて検討し、現地ならではの体験による非核平和への理解を進める取り組みが必要である。また、平和教室について、より多くの子どもたちを対象とする目的から、新たな形態での開催方法が課題である。</li> </ul>			
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生等のボランティアリーダーが活躍できる場を展開し、児童・生徒から青年層まで、年齢に応じた体験の循環ができるような新たな事業を検討する。</li> <li>・少年補導委員は中高教職員、地域の推薦者へ市が委嘱しており、警察や学校、地域の方々の連携のもとに見守り体制を維持し、少年非行防止、犯罪被害の防止の視点で街頭補導活動や啓発活動を継続する。</li> <li>・小学生を対象とした非核平和学習会については、広島市の状況を見ながら派遣を検討する。また、平和教室の開催については多くの子どもたちに非核平和への理解を深めてもらうため、広島平和記念資料館講師によるオンライン講座の開催について検討する。</li> </ul>				

3	施策名	国際都市の推進			
	施策の成果指標の達成状況	H31 B	R02 D	R03 D	R04 B
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により4年間延期となっている姉妹・友好都市周年事業の実施に向けた調整が必要となっている。</li> <li>・2年間中止となっている、市が補助し国際交流協会が実施している青少年海外派遣研修事業について、再開に向けた協議や再開できない場合の代替策の調整が必要となっている。</li> <li>・定住外国人が増加している状況に対応するため、多文化共生推進プランに基づき、引き続き定住外国人等の支援及び市民への多文化共生についての理解・周知を進める必要がある。</li> </ul>			
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・延期となっている姉妹・友好都市周年事業の実施に向けて、相手国の担当者や関係団体と調整を図る。</li> <li>・青少年海外派遣研修事業について、再開に向けた国際情勢の把握や関係団体との協議を進める。</li> <li>・定住外国人が増加している状況に対応するため、多文化共生推進プランに基づき、定住外国人等へ特にニーズの多い日本語講座の拡充等の支援及び市民を対象に出前講座等を実施し多文化共生についての理解・周知を進める。</li> </ul>				